



研究用試薬

ヒストファイブ

第一抗体

抗カルレチニンウサギモノクローナル抗体(SP13) (ヒストステイナー用)
(動物種：ウサギ)

包装： 60テスト(12mL) Code：713561

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。

■特異性および抗原分布：ヒト組織中の 31.5kDa のカルレチニンと特異的に反応する。カルレチニンは、カルシウム結合能を持つ EF ハンド領域を有するトロポニン C スーパーファミリーに属するタンパクである。正常では、中枢神経組織、末梢神経組織等神経細胞、発育した小脳皮質に存在するプルキンエ細胞、籠細胞、すべての漿膜にある正常および反応性の中皮細胞の細胞質と核に反応がみられる。腫瘍では、多くの中皮腫やいくつかの肺腺癌で反応が見られる。中皮腫と腺癌の区別に有用であるが、他のマーカーと組合わせて使用することが望ましい。

■クローン名：SP13

■抗体のサブクラス：ウサギ IgG

■免疫原：マウスカルレチニンの全長リコンビナントタンパク。

■製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗カルレチニンウサギモノクローナル抗体(SP13) (動物種：ウサギ)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 12mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトカルレチニンの染色。

*3. 切片の準備

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

前処理(抗原賦活化)として 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理(照射 1 回のみ)が必要である(裏面参照)。

■注意：組織の固定状況等により 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理の照射を 2 回以上行くと良好な染色結果が得られない場合がある。

*■参考：組織の固定状況等により 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理(照射 1 回のみ)の代わりに、プロテアーゼ処理またはヒストファイブ 抗原賦活化液 pH9(Code：415201 または Code：415211)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。

4. 使用方法

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗カルチニン抗体モノクローナル抗体(SP13)
試薬略称(10文字)	CR-RM
バーコード	CR-RM
時間(分)	30

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

- 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4 μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に貼り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
- 脱パラフィン → 親水化 → PBS
- 前処理(抗原賦活化)：マイクロウェーブ(MW(500W))処理
 - 緩衝液(下記記載)をバットに入れ、MW照射し沸騰させる。
 - 沸騰した緩衝液に切片を浸し、MWを5分間照射する。
 - バットごと切片を常温(15-25℃)に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※MW処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL

A液：0.1M クエン酸水溶液 クエン酸一水和物(C ₆ H ₈ O ₇ · H ₂ O)2.1g/精製水 100mL
B液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液 クエン酸三ナトリウム二水和物(C ₆ H ₅ O ₇ Na ₃ · 2H ₂ O)14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。

■ 参考：プロテアーゼ処理を用いる場合(おもて面の■参考参照)

・ 使用方法

- ヒストファイン プロテアーゼ溶液(ヒストステイナー用)(Code：715231)を他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
- 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

・ 染色方法の設定

- プロテアーゼ 反応時間を5分間とする。(組織の固定状況等により、反応時間を5~15分間に設定すると良好な染色が得られる場合がある。)
- 第一抗体 反応時間を30分間とする。

■ 参考：ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code：415201またはCode：415211)オートクレーブ処理を用いる場合(おもて面の■参考参照)

- 緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
- バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
- 120℃、20分間オートクレーブ処理する。
- 圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
- バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
- スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

- | |
|---|
| ・ Code：415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。 |
| ・ Code：415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。 |